

運動を楽しみ、健康に気をつけて生活する国見っ子の育成

大分県国東市立国見小学校

全校児童数	78名		
全クラス数	7	教職員数	22名
体育専科教員訪問学校数			7校
訪問校	富来小学校、国東小学校、小原小学校、旭日小学校、安岐小学校、安岐中央小学校、志成学園		
体育専科教員名			荒木 茂

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体力・運動能力調査結果に次の弱点領域がある

- ・50m 走
- ・20m シャトルラン
- ・反復横跳び

◆運動への愛好度の肯定的回答は高いものの「好き」の割合が県平均より9ポイント低い

- ・ゲーム要素を取り入れる

2 取組の計画

- ①体育科授業の充実
- ②1校1実践の取組の改善と充実
- ③市内小学校への訪問指導における指導助言
- ④体力向上プランの作成・実践・検証
- ⑤体力向上に向けてPTAと連携した取組

Do：実践内容

1 体育授業の充実

(1) 授業の流れのスケジュール化

- ①サーキットをスタートとして、準備運動・主運動につながる運動・主運動・振り返りまでを提示して1時間の見通しを持たせた。運動量や助け合い活動の向上へつながる取組が進んできた。
- ②単元の初めには、単元の流れを示し、めあてを持って授業に取り組みやすいようにした。

(2) 解決意欲を促す課題設定

- ①子どもが意欲的に取り組めそうな単元配列や教材の選定を心掛けた。また、子どもの実態に応じた適切な課題を設定した。

2 1校1実践の取組の改善と充実に向けて

- ①子どもたちが自ら進んで取り組めるように、学期毎に変化を持たせた。安全に効率的にできるように配置を改善した。
 - ・1学期 8秒間走、反復横跳び、ケンパー
 - ・2学期 持久走、体操
 - ・3学期 しっぽ取り、8秒間走

3 市内小学校への訪問における指導助言

- ① 授業での写真や動画を示しながら、適切な言葉かけが子どもの動きにどのような効果をもたらしたかなどを評価した。
- ② 体育授業でのICT機器導入の道筋や機器の取り扱いについて、効果的な活用場面を評価したり紹介したりした。
- ③ 授業支援アプリ(ロイロノートスクール)での振

り返りに使用するアンケート使用の具体的な方法やデジタル素材等について説明したり紹介したりした。

●工夫したこと

- ① 単元や授業に入る前に担任と打ち合わせを行い、準備や役割分担について確認した。支援を要する子どもについての場づくりや支援方法について確認した。
- ② 体育専科教員が動きのコツをアドバイスするなど出番を決めてポイントを絞った指導に努めた。
- ③ 全学年を通じて、子どもの活動時間(運動・助け合い)を確保するための授業の流れを決めた。また、教材教具等の授業の場づくりのための準備や片付けの省力化のために学習時期を同じにした。
- ④ 助け合い活動を行う活動時間を最優先し、子どもの意欲の持続を図った。
- ⑤ タブレットを授業に導入することができた。有効活用のために他教科でも使用頻度をあげることが大切である。

Check：取組の成果

- ① 多くの単元で子どもが意欲的に取り組むことができた。そのことで運動量確保につながった。
- ② 運動が苦手な子どもの小さな成功体験を積むことができ、意欲向上につながることができた。
- ③ 学級担任が授業内容を専科教員と一緒に考えることで安心して授業に臨むことができた。
- ④ 体育専科教員が前年度の学習内容を知っているため、教育課程を計画的に進めることができた。
- ⑤ 支援を要する子どもへの指導ができることで、子どもの意欲向上につながった。
- ⑥ 訪問校の若手教員を中心に、授業力向上に役に立つことができた。

Action：今後の課題

- ① 意欲向上のための支援のあり方
- ② タブレットの有効活用
- ③ 効率的な授業準備のあり方

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

学習過程や教材の工夫をすると、子どもが進んで練習や助け合い活動を行うようになってきた。

